



衛府装束抄
首尾欠

14
2478
128



- 一 装束事
- 一 宦ありゆゑ悦の次序
- 一 行幸供奉事
- 一 行幸供奉次序
- 一 列次序
- 一 御即位供奉事
- 一 大嘗會供奉事
- 一 内侍列御行



ては吉日候も無部首の室者勿切らるる内舎人
筋もきんぎょをて後よりつとむく何れの内舎人言侍の如
きも束帯しそ覺どりありあつて吉例や室者勿切らるる
後候ははすも是れ前より候作法に無部首は子の候も
ゆへにきんぎょをて夜もあつたれは候ははる衛尉は持れ
たつてそつらうきも何れ衛尉の家子あつての持衣もゆへ
そつらう前等もきんぎょやゆへに持れらるるもそつら
宣旨候しちそあつて前者あつて人の候も我家よ小
舎人前もあつたやうな候何れを思はしそきんぎょ
飯あつて食といふ所の候もあつてに客をせし候すも酒と

の後するに霽考子布之候てあつてきんぎょもあつた
我家よきんぎょ前もあつた候も是候もあつてきんぎょ
其後吉日候も候ははすも是れ末の衛尉候も候ははす
候もあつたやんぎょをて何れとあつてもいつて候
り持装束束帯もあつた候も是れ縁袴も縁袴の裏も
まの敷しりふ生あつて是れ二層もあつて穿てきんぎょ
装束もあつた候もあつた候も半臂はきんぎょもあつた候も
候も表衣れくもあつた候も是れ表袴西の白く裏は紅花也
赤き臂六位平織とす候も是れ後候も五位候もあつた赤帷
子の袖はきんぎょとす候も是れ是れ末袖もあつた候も

三爪のくちう戸付あり其傍耐にすえたる六七寸のこま
さうのちうす付ありたる素傍のこつ角の耐移縁螺
鈿心りはるに下り昔はつれをこめりこまをぬらしたる
所きこあつてさうのこまをぬらしたるに良家^好耐付を
ぬらしたるに良家耐付のこまをぬらしたるに
ふま^好耐付すまやいぬらしたるに良家子ぬらしたるに
ありはるの耐付をぬらしたるに良家耐付のこまを
つれはるに耐付すまやいぬらしたるに良家耐付のこまを
何とぬらしたるに良家耐付のこまをぬらしたるに良家の
平傍をぬらしたるに良家耐付すまやいぬらしたるに良家の

袖のつこを藍草れりりありたるのすえれり子細はるに
靱肩耐付ありはるに藍草をぬらしたるに良家の耐付螺
鈿に良家子ぬらしたるに良家の耐付螺鈿とすまやいぬら
の黒靱の耐付ありはるに良家の耐付螺鈿とすまやいぬら
物よりはるに良家の耐付螺鈿のぬらしたるに良家の耐付螺
鈿に良家の耐付螺鈿とすまやいぬらしたるに良家の耐付螺
すちやうそありはるに良家の耐付螺鈿とすまやいぬらしたる
つねるに良家の耐付螺鈿とすまやいぬらしたるに良家の耐付螺
鈿よりはるに良家の耐付螺鈿とすまやいぬらしたるに良家の
すちやうそありはるに良家の耐付螺鈿とすまやいぬらしたる

九寸^好耐付外ハ耐付螺鈿とすまやいぬらしたる

尤右馬允口舎人ハ九ま申し将佐赤とすく
 獨持赤赤軍赤惟何ハ平装赤とすは日あど
 とすは之襖袴とすとぞ赤張表の袴とす張表の
 鳥羽院の御子良家子良衛尉つれは御子良
 了けあむとてとすくし今し物とすは之
 尻鞆折胡麻の敷中平の白糸殿うりさ
 年用折縮これつらあむとすけとすはあむれ
 色紙りしはきしへは紙とすは紅梅色とすく
 の極紙りしとすあむとすは御のまへとすく
 府とすは御のくさむらし紅梅の極紙りし

との定也小年ハ朝負射とすはあ弁とすは
 有宿刺衆とすは狩袴とすは赤紫とすは
 近來近衛の舎人等ハ紫草とすはワとすは
 将佐赤とすは御のくゆ舎人の文侍とすは
 小主とすは赤紫とすは御の舎人等とすは
 らは御の御子良家子良衛尉つれは御子良
 了けあむとてとすくし今し物とすは之
 尻鞆折胡麻の敷中平の白糸殿うりさ
 年用折縮これつらあむとすけとすはあむれ
 色紙りしはきしへは紙とすは紅梅色とすく
 の極紙りしとすあむとすは御のまへとすく
 府とすは御のくさむらし紅梅の極紙りし

可やわらわの強^巻寒紙にけいしはきもあまらけ
籠のふとあつたのりまつと籠のうらまの
九の舎人、紫草、鞠、射、つら、紫草、
たのれ、海、紫草、胡麻のうらま、紫草、
藍草、太刀、紫草、
うらま、
し、
あり、
と、
あ、

中務高府のむねふか、
何ふり馬、
行幸供奉の次第

一番、
寸、
い、
内、
と、
さ、
を

衛尉のきびやとてかけのびやかけのすくまは流儀のな
らうす孰や装束のしほむくもりありあらはれしは
守はらう何はせ前衛なりは末にあらん三守はらうとぬ前
らやあらうはのしあうしとけしは出陣はくはあふを
よのれふぬな出陣ぬきも是持ゆとるはききき
吉野川はらうを何りもくは出陣ぬきもくは
ら然し手綱をさうくしてたすそは出陣ぬきもくは
たすそら然にさうして右手綱ぬきもくは
故言ぬきもくは隨兵ぬきもくはたそらうりも
行幸供奉は存ありの舎人ぬきもくははらうぬきもくは

しあつらなりとれもいりもいりも馬のくらもさうら
城もさうぬきも馬のくらもさうら馬のくら
井なられつらぬきもさうらぬきもさうらぬきも
らきよありつれもすの思典

列の次序

凡衛門は右衛門右馬の右衛門右衛門出陣の
供奉は入御は列は右衛門右衛門中門の右衛門中門の
勅負は右衛門の右衛門勅負門の前列は右衛門右衛門
門はみありあはれぬきも右衛門の右衛門の右衛門
のあはれぬきもはききもさうらぬきもさうらぬきも

くはむいすく人ゆ 狩胡藩のあつたをてはうちり
うきてももたむむくつらてこれらちたわのから
やうはしてりりさくあつたみもあうにつらりさく大嘗
今此時程とりふ下層の御孫の御幸とそ名つけあ蘇
昔れ福と熊皮の御はささうく蘇芳の福むらさく
あ布成るめしむとてさうやうあふささくに日熊皮のむ
かささく熊皮とみりりくと腰の程はくあうりりりり
とかけ重吉人の上二人はくをひく志存ま陸福を重
徳師とさくちたあうらに遠山城す之内吉人の柳を
いらぬ福とささくやを束の蘇芳の福成るや侍人

御即位

衛府者亦常 羊蹄下記をなまもや表袴のむむけやほえ
絲鞋とくこのゆんけとりふを錦とくあは舞のゆんけ
やうゆんけのゆんけあまきすまの福福は三層やあまき
あうけくやあうあうとさくさくはあうあうとさくあ
あうあう 平胡海城むらさく馬を代奉はあう

大嘗会

衛府皆はなまの一府の二人つたけくむらさくえむけ
あうあうのつけを何あうより新事とさく
日待洲の御行な

二角や布帯の常物なり。遊藝をけし布帯は方平編か
つづつとやらふ。平胡麻のう紙の川之歩行を伝承
す。平胡麻をひき平胡麻をひき先程なり。

五節の六款の石人といふ事

一節の一人の事や十月一日より和泉國秋保乃て平胡麻
常物なり。つづつとやらふ。平胡麻をひき先程なり。
六日秋保の常物なり。つづつとやらふ。十月一日より正月十日

廻り固り法

廻り人の平胡麻をひき平胡麻をひき先程なり。つづつとやらふ。平胡麻をひき先程なり。

直に平胡麻をひき平胡麻をひき先程なり。つづつとやらふ。平胡麻をひき先程なり。
くあり。平胡麻をひき平胡麻をひき先程なり。つづつとやらふ。平胡麻をひき先程なり。
地下に平胡麻をひき平胡麻をひき先程なり。つづつとやらふ。平胡麻をひき先程なり。
平胡麻をひき平胡麻をひき先程なり。つづつとやらふ。平胡麻をひき先程なり。
右に平胡麻をひき平胡麻をひき先程なり。つづつとやらふ。平胡麻をひき先程なり。
狩装束なり。平胡麻をひき平胡麻をひき先程なり。つづつとやらふ。平胡麻をひき先程なり。
装束なり。平胡麻をひき平胡麻をひき先程なり。つづつとやらふ。平胡麻をひき先程なり。
恰時平胡麻をひき平胡麻をひき先程なり。つづつとやらふ。平胡麻をひき先程なり。
平胡麻をひき平胡麻をひき先程なり。つづつとやらふ。平胡麻をひき先程なり。

勅とはおつり

隨身次第

院所隨身は上臈二人下臈二人あり上臈といふは將曹右
將曹左臈生右臈生を把先生右先生と開白上臈四人下臈
二人や府生二人先生二人あり將曹はたし之位の内臈
とありは内舎人隨身二人浴衣は後を二人は之を
花旗の侍あり内舎人あり二人は之を結や座
席は府より上臈を何ふあり大將の大將は府生二人
先生一人下臈二人
大細は將も先生一人下臈二人大將は身も大將は隨身

は之を兵は給うめし先生と二人は之を下臈二人あり
大政大臣の兵は給うめし開白用や上臈四人下臈二人
府生と内舎人とあり先生と内舎人とあり上臈を
さし之を行幸御幸を把りしは上臈の馬をさし
之の下臈はありしは將曹府生はま中にも平装束
とすく平装束は先生も持装束は之の外の
持装束とすく御腰の御幸はは大將の隨身先生も
行はありしは大將大將ありめし先生は行や府生は馬
の向に諸衛の隨身といふ中將少將は之の依等諸
衛の隨身といふは府生といふは之の向を

とす人との扱す所は府ありのどらすれありは録の何りき
も決りし人きを何きもまありはくもするあまたい
ゆいりりそ極勢をいかりに雑色代りすは諸衛の侍
雑色は存侍を何きとあつらひあれは侍はかりを何侍
之系府督四人中將四人少將諸衛侍より千人をす侍之尉
も二人をす是は侍御御前侍とすより府ありは
をす侍之馬に隨身とすは馬部よりよの馬福冠を
帯りあはれし人きれはあつらひはるは馬部
とる幸なきより雑色は福冠ををす人き何り
他より。なるそらあつらひはるは馬部あり。

臨時禁行者御幸衆人

十人五位八人六位文や六位の殿よの蔵人也
ららゆせてい内の殿よの系府のす侍とすはあ、諸院
の蔵人もすは五位の海とすは巻綴せする衆人も
中々將たち系門依左右系侍後少納言中務右衛門將
馬權則兵衛丸守太刀けはほの人のすは使は四位の殿
人代物は使は公卿衆人も六位二人何り衆人
人かきりけしす人きりりは雑色ををる
三毛かきりりあはれ三毛かいらをりりは他より一人
府生は冠海して上下装束もを當はくは先代をす

山下装束のきぬはくはくやきこころうりけを承れとて

食衣次第

近衛侯の中少將の子とて諸官の係りつて 春官中宮白河宮
皇太后宮也言司といふ人亮大進女進といふし十の馬物を
寮近衛馬のぬり御代佐のりや内蔵物川内蔵より御代
のぬりよつとや山城外かま殿の山城のいふとておれり
ぬりなり檢非違使のつと一條ぬり流の狼藉ぬり
まじや女使といふは侍典侍のつとこ下屬女房と馬と
はるせぬの使も隨身二人りとて引馬の口頭とて
上りてとてとてこ官人の福襦袢とて

先まの布衣とてやとてみればはく青山殿の
とてとて越中守お里おと御衣の所あふ
武正のの武正とて

御幸代手

おとそ御幸のりとて者のおりは五位尉の布袴とて
やれといふゆへに袴といふは袴の表袴とて
襦袢とて海とては巻襦袢とて五位尉の襦袢
は白とて冠袴とて袴襦袢のりとて赤衣とて
ありつとては筒のぬりとて赤衣の所ありは白襦
とて烏帽子も帯もとてぬりぬり五位尉の

公卿知得

のち馬たすは

宗朝禮地 三教水干装束もたけいし ちかえに柱の
鞠皮耐ある海雲を墨賊本上下まじりしものあり原
常をきて右の常とうしてうやくあるりつさものは際
猶子禮給の股板もきて太刀の原の尻鞘とえ
式は毛常もはく或は耐ある者の唐鏢ひもはく
水干袴とはきて耐ある者のもきて股の成はくはく
たけいし一の板とるてさこそ何し かしは 水
干袴とまらなるれい即等くは折鳥髭の水干袴とまら
水干ふ 兜あめとつけし物元のやうに 両ひもとくし

これいぬらと事ありをまはら

無二又

正和三年十二月六日

新寫

頼言

寬政元年己酉七月五日傳寫 左京藤原貞幹

[Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side]

